「ありがとう」の力

昔読んだ科学雑誌に、こんなことが書かれていた。科学最大の難問は言語の起源なのだと。確かに当時を知る人間は一人も居ないし、文字なら何かに残っている可能性もあるが、言葉はそうはいかない。

そんな中、世界の科学者たちはさまざまな説を唱えている。動物の鳴き声をまねしたとする説や、共同作業でのかけ声という説、ある日突然言葉を話すようになったという説などもあり、どれを取っても大変興味深い。僕にはそれを解明するほどの技量も知識もないのだが、人が初めて耳にした言葉についてなら少し考えられるかもしれないと思い、考えてみた。

例えばたった今生まれてきた赤ちゃんは、最初にどのような言葉を聞くのだろうか。頑張って生まれてきてくれたことや、やっと会えた思いをこめて「ありがとう」と声をかけられるのではないだろうか。その言葉を聞いた赤ちゃんは「いえいえどういたしまして」などと答えるはずもなく、ただ「オギャー」と泣くだけなのだが。周りの人々はどうしても伝えたい自分の思いとして「ありがとう」というのだろう。

また、大切な人が亡くなったときに発せられる言葉も同様に「ありがとう」という言葉が使われる。相手が理解できているかどうかも定かではないにもかかわらず発するこの言葉には、コミュニケーションツール以上の力が宿っているのだろう。

生命誕生の幸福を最大化する力、命のはかなさに直面し寂しさを癒やす力、つまり自分自身へ向けられたパワーワードとでもいおうか。それを人生最初に聞く言葉と最後に必ず聞く大切な言葉として受け継いできたと考えたら、何だかすがすがしい気持ちになる。

他者への感謝の意味以外にも大きな意味を持つこの言葉を、出し惜しみせずに使おう。われわれはこれまで、知らず知らずのうちに発した「ありがとう」という言葉で、自らをたたえ励まして生きてきたのだから。

たかみ・だいすけ　日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。42歳。

c大分合同新聞社　無断複製転載を禁じます。